



答 申 第 3 号
令和 6 年 9 月 18 日

那覇市長 知念 寛 様

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会
委員長 屋良 朝雄



地方独立行政法人那覇市立病院第 4 期中期目標期間における業務実績
評価について（答申）

令和 6 年 7 月 22 日付け諮問第 3 号について、次のとおり答申します。

記

別紙「第 4 期中期目標期間における業務実績評価に関する意見」のとおりに
答申します。

(別紙)

地方独立行政法人那覇市立病院

第4期中期目標期間における業務実績評価に関する意見

令和6年9月

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会

本評価委員会において、那覇市長より令和 6 年 7 月 22 日付け諮問第 3 号で諮問のあった「地方独立行政法人那覇市立病院第 4 期中期目標期間における業務実績評価について」について審議を行った。その結果は以下のとおりである。

地方独立行政法人那覇市立病院第 4 期中期目標期間における業務実績評価について、中期計画第 1 から第 4 の各事項に対する意見は次のとおりである。

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

新型コロナウイルス感染症の影響で、診療制限を行いながらも、365 日 24 時間の救急医療体制の維持に努め、救急車受入率を高水準に保つ等、那覇市立病院の使命を果たしていると評価する。

コロナ感染拡大時には最大 63 床の即応病床の確保（令和 3 年度）し、発熱外来・PCR センターの設置、小児救急患者への受診体制の確保に協力し、保健所との緊密な連携を行ったこと、また、医療支援の取組みとして、県コロナ対策本部の派遣要請に対応し、活動を行ったことを高く評価する。

しかし、令和 5 年度末より那覇市立病院の象徴とも言える小児救急医療提供体制が小児科医の不足により縮小しており、医師確保や県立南部医療センター・こども医療センターとの連携等を進め、本島南部医療圏の安定的な小児救急医療体制の再構築に努められたい。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

コロナ禍の早い段階より「那覇市立病院コロナ対策本部」を立ち上げ、多職種が連携して取り組んだことを高く評価する。また、職員のメンタルケア対策等として、コロナ禍でも行えるオンラインフィットネスの導入や「職員やりがい度調査」の実施、令和 6 年度から始まる医師の働き方改革に向けて委員会を設置し、働きやすい職場環境づくりへ努めたこと等、様々な場面、業務において、「PDCA サイクルの確実な実践」を着実に進めたことを高く評価する。

第 3 財務内容の改善に関する事項

診療報酬の請求は、全国平均より低い査定率を維持、健全な診療報酬請求を継続していることを評価する。新型コロナウイルス感染症の影響により「医業収支比率」は悪化しているものの、補助金等収益を活用することで令和 4 年度まで「経常収支比率」の 100%超を継続したことを評価する。令和 5 年度は多額の当期純損失を計上したが、現在地での新病院建設という難事業を進めながら、診療実績の回復に努め、収益の改善が図られたことを評価する。

第4 その他業務運営に関する重要事項

令和5年度の国際医療支援室開設、JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）を取得し、前年度よりも大幅に増加した外国人受診者にもスムーズに、かつ、幅広く対応したことを高く評価する。

物価高騰や建築価額の高騰により建築費が増加することもあるが、那覇市と調整しながら新病院建設を着実に推進していただきたい。